

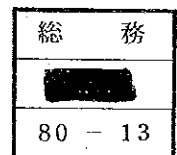
9804

昭和54年度南西アジア地域大使会議出席公館長  
と事業団との懇談会議事録(要旨)

時：昭和54年11月15日

於：外務省 656号室

国際協力事業団



100  
36  
GAG

84.8.28	100
14370	36
	GAG

# 目 次

I 懇談会出席者	3
II 懇談会次第	4
III 議事録 (要旨)	5
1 梁井経済協力局長挨拶	5
2 総裁挨拶	5
3 事業田業務説明	5
4 意見交換	5
(根本大使：パキスタン)	5
(伊藤大使：バングラデシュ)	6
(土屋大使：ネパール)	7
(金沢大使：インド)	8
(越智大使：スリ・ランカ)	9

JICA LIBRARY



1058193[2]



## I 懇談会出席者

<公館長> 在インド 金沢正雄大使  
在スリ・ランカ 越智啓介大使  
在ネパール 土屋南夫大使  
在パキスタン 根本博大使  
在バングラデシュ 伊藤博教大使

<外務省> 梁井経済協力局長  
西山経済協力局参事官  
及び関係課長，担当官が陪席

<事業団> 法眼 総裁  
井上，荒勝 両副総裁  
橘，瀬川，長尾，長谷川，有松，遠藤，  
岸田，風間，久留 各理事

## Ⅱ 懇談会次第

1 開 会 (10:00)

1 経済協力局長挨拶及び大使紹介

1 総裁挨拶及び事業団役員紹介

1 事業団事業概要説明

1 意見交換

1 閉 会 (11:00)

### Ⅲ 議 事 録 (要旨)

#### 1 経済協力局長挨拶及び大使紹介

#### 2 総裁挨拶

本日、南面アジア地域大使との懇談の機会を得たことを幸いに思います。

日頃、事業団の業務につき大いに協力をいただき、たいへん感謝しております。

事業団の業務である技術協力は、外交の一翼を担っており、日本が明日の日に自分の首をしめることのないように、広い意味で援助は必要であると思います。

我々は、各大使のご指導とご協力を得て我々の業務をいっそう発展させたいと思います。

#### 3 事業団業務説明 (橋 理事)

配布資料に基づき説明。(略)

#### 4 意見交換

(根本大使：パキスタン)

研修費受入に関する情報は前広(4ヶ月前位)に欲しい。特に受入れの全体計画については1月頃までに

欲しい。

(伊藤大使：バングラデシュ)

- (1) 専門家の中には、質的に落ちる者もある。今後は、専門家の養成にいろいろ力を入れて欲しい(特に現地語教育について)。

協力隊のBを活用するののも一つの方法だと思う。

- (2) 調査団の中には、仕事のできないものもある。
- (3) F/心はアジア開発銀行でという傾向が芽ばえつつある。

(法眼総裁)

- (1) について — 各省庁等に対する専門家派遣依頼をへらし、事業団固有の専門家を養成確保するよう一層努力をたい。

(井上副総裁)

- (1) について — 協力隊のBの活用に向けた力を注いでいる。

(土屋大使：ネパール)

- (1) 専門家が治療のための帰国ができるのか。
- (2) 専門家は、技術移転のフォローアップをすべきなのに、



マンパワーとして使われてしまう状況がある（西部地域医療）。

(3) 協力隊員は、現在約40名いるが医療分野に偏っている。

(橋 理事)

(1) について — 現行制度上は、一定の条件の下に「病気療養一時帰国」が認められている（但し、旅費は支給しない）。更に検討の余地があるかと思われる。

(3) について — 今後は、スポーツ等の分野にも広げたい。

(井上副総裁)

(2) について — カウンターパートを出してもらい日本で技術移転を行う。しかし技術移転を受けるとその人の地位が高まり、母国へ戻っても、他へ移ってしまい、思うように行かない。気長にやるしかない。

(土屋大使)

技術移転の受皿となる人自体がいなののが問題である。

(金沢大使；インド)

(1) 研修員の受入は歓迎している。しかし、従来情報の

流し方では遅すぎて、あるコースでは、相手国から要請があつて来た時には、終っていた。

従つて、コースの開始時期を遅らせる等の検討を願いたい。

(2) ブータン問題、要請があがってくるのに時間がかかる、その点を配慮願いたい。又、一般的にインドの了解を得なくては何もできないという状況があるので、事務的にやるとインド側を警戒させる恐れがあり留意願いたい。

(3) 技術協力と無償協力を結びつけてほしい。

現在、大規模農業協力の要請が出ている。又、機材供与も考えていただきたい。

(法眼総裁)

(1) について ― 何ヶ年計画かで、大使各位の方から相手国の底流にあるものを察知してこちらに知らせてほしい。

(金沢大使)

A 2-3 フォームを待つて、はじめて動くのであるからそれは必ずかしい。それでは、来年度は今年度と同じコースがあると想定して今から相手国に話をしてよろしいか。

(法眼総裁)

その線でけっこうです。

(有松理事)

集団1(1タノコース)は継続して行っている。集団2(20コース位の新設コース等)は随時行っている。

(井上副総裁)

集団2は、年度後半に出すよう検討する。

大使各位にも恒常的な要求を出していただきたい。

(橋 理事)

(2)について — ブータンへの派遣専門家が出国できなくなった例もあり、慎重に対処したい。

(越智大使；スリ・ランカ)

(1) 高等水産講習所は、法眼総裁に来ていただいてから立ち直った。総裁にお礼申し上げたい。

同講習所卒業生も300名になり、今回同窓会が中心になり事業団の後援により漁業展を行ったところ、非常に好評であった。その中で日本の「オリガミ」も非常に評判となった。こういったものに対する広報予算はない

- (2) 他国(スウェーデン、カナダ等)の援助が大規模なので日本もそれに劣らないような援助を願いたい。
- (3) 今後は病院を中心とした協力が望しい。ペラデニア病院はたいへん評判が良い、大統領記念病院の件は、ナショナルプロジェクトとして考えていただきたい。

(有松理事)

- (1) について — 「オリガミ」代ぐらひは、現地業務費から出す方法もあるのではないか。

(井上副総裁)

- (1) について — 同窓会費用は予算がついているが少額である。来年度は、事業費内での支出を検討したい。

(有松理事)

- マハベリの件は、円借の話も出ているが、大使の方でも推進願いたい。

(岸田理事)

- (1) 大使各位にお願いしたい。

我々は、相手国の技術協力の評価を考へながら業務を行つておるので、管轄大臣の評価を日頃から心の隅にと

どめておかれて、もし問題があれば外務省を通じ事業田  
に連絡願いたい。

(2) これは外務省へのお願いになるが、大使館内の技術協  
力担当官が極めて少いのが現状であるので、ぜひその増  
員をお願いしたい。

( 経済協力局長 )

本日の懇談会を終了いたします。

ありがとうございました。

以 上





